

□()現代文(採点基準)(文科)=合計40点

問一【配点5点】

A 1点

B 2点

(模範解答例) 現代社会での自己実現のための文化的な()の他者との()差異化を演技的に図る世界から

C 2点

離れた自己の確認はできるが、他者との関わりでしか「えられぬ自己の意味を喪失しているか」

A 「現代社会での自己実現」 1点

・「現代社会」「自己実現」()「主体」の「存在の充実」も可()の2ポイントがそろって初めて1点。

B 「文化的な差異化を演技的に図る世界から隔離した自己の確認はできる」 2点

・「文化的な差異化を演技的に図る世界」については「差異化の戯れ」と文中の表現をそのまま用いたものも可。
「これだけ」。

・「そいつの世界から」の「隔離」という内容と合わせて表現されていて1点 計2点

C 「他者との関わりでしか」「えられぬ自己の意味を喪失」 2点

・他者との関わりでしか「えられぬ」1点。

・「自己の意味を喪失」1点。計2点。

問二【配点5点】

A 1点

B 2点

C 1点

(模範解答例) 親密な他者の愛が自分に向けられ、差異化のための演技から解放された自分を、相対的に

D 1点

安定した形で肯定してくれる 精神的・観念的な関係を中心とする世界のこと。

A 「愛が自分に向けられ」 1点

B 「差異化のための演技から解放された自分」 2点

・「差異化のための演技」「解放」という2ポイントが必要。

文中の言葉をそのまま用いて、前者を「差異化の戯れ」、「差異化のための扮戯」、
後者を「あるがままの『自分』』」そのま「の自分」と書いたものも可。

「ありのまま」「そのま」「は原文中」「」が付されており、そのまま用いることは好ましくなく、
また勝手に「」を外すことも本来あまりよくないのだが、字数的制約も厳しいので、今回は不問。
よって「差異化のための扮戯をしないありのままの自分」と書いた解答は、2点を与える。

C 「相対的に安定した形で肯定してくれる」 1点

・「相対的」は必須。単に「肯定」とのみ書いたものは0点。

D 「精神的・観念的な関係を中心とする世界」 1点

問三 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 1点

D 1点

E 1点

(模範解答例) 演技なまの自口への他者の肯定を自口で肯定する保証はないという他者認識の問題

題があり、しかも相互の評価通りの存在たらんとして 再び演技が必要とまなるから。

A 「演技なまの自口への他者の肯定」 1点

・演技なま「そのまを、おのまを、あひのまを、でも可。」

この内容と、「他者の肯定」「肯定的な他者の評価」といった表現が両方あって1点。

単に「他者の自口に対しての肯定的評価」としたものは不可。

B 「自口も肯定的に受容される保証はない」 1点

・BはAに対しての「自口」の肯定という内容。 Aが大きくxで、Bは というケースは少数だろう。

C 「他者認識の問題」 1点

・このまの表現が必要。

D 「相互の評価通りの存在たらんとして」 1点

・互いは親密性の関係において、相手がそうした評価通りに存在することをもとめる」という箇所を踏まえていると判断できれば得点を与える。

・本来「互いに」という表現は必要なのだが、抜けていても可とする。

E 「再び演技が必要とまなる」 1点

・Dに対して「演技が必要」と述べて1点。

「演技」「差異化の戯れに引き戻される」「再びマイテンティの危機の問題が生じる」という表現も可。

問題四 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 2点

(模範解答例) 自口表現の演技性の私試も他者の演技の見極めも困難であり、また差異的な文化価値にお

ける相互評価を習性づけられ

演技を離れた相互の確認・肯定も困難であること。

A 「自口表現の演技性の私試」が「困難」 1点

・他者を前にすると、演技的に差異的な文化価値で身をつつむぶるまいをたたきこまれている」を踏まえた表現があるを判断せねばならず。

・思わず演技の殻をかぶって「自口」「素になれない」「自我」という箇所を踏まえたものも可。

B 「他者の演技の見極めも困難」 1点

・相手の『真実』であるかはわかりかねる」という表現も可。

C 「差異的な文化価値における相互評価を習性づけられ」 2点

・差異的な文化価値に感覚をこきすまし(1点)、他者をそつした価値で評価することを習性としている

(1点)を踏まえていると判断されれば、両方が入っていて2点。一方なら1点。

D 「演技を離れた相互の確認・肯定も困難である」と「 1点

『あるがままの』相手の存在を確認し肯定することの難しさを「という箇所を踏まえていれば1点。
」ありのまま」という」「の付された表現をそのまま用いても減点しない。

問五 【配点10点】

A 1点 B 2点

B'

(模範解答例) 現代社会では差別的文化価値との関わりの中で全ての主体は自己実現を図り得るを得ず、

C 2点

D 1点

E 1点

F 1点

危機に陥るアイデンティティの確保を親密性の関係に求めて 失敗すれば、主体の追求する

G 2点

文化的コミュニケーション、従って文化的支配のメカニズムを揺るがすことになるから。

(11104)

A 「現代社会」 1点

B 「差別的文化価値との関わりの中で」「自己実現を図り得るを得ず」 2点

・さまざまな表現が出ることで想定される。

前半 「差異」という言葉が用いられていれば、「差異化の戯れ」といった表現でも1点与える。

後半 「社会的存在として自己を実現」「社会のなかでの存在の充実」といった表現を踏まえていれば1点。

C 「危機に陥るアイデンティティ」 2点

・「アイデンティティ」の「危機」あるいは「飛散」「断片化」といった言葉が使われているのが望ましいが、『』本当の『自分をもとめ』という表現も可。

D 「アイデンティティ」の確保を親密性の関係に求めて」 1点

・「親密性」は必須。「部屋」「シェルター」といった比喻をそのまま用いたものは不可。

E 「失敗すれば」 1点

F 「主体の追求する文化的コミュニケーション」 1点

・原則的に「そのままでなければ不可。

G 「従って文化的支配のメカニズムを揺るがすことになる」 2点

・現代の文化的支配構造の基盤を揺るがす」も可。

F・Gの論理関係は「したがって」と本文に因果関係が明示されている以上、それ以外の論理関係(たとえば「あるいは」など)は一切不可。因果関係が明示されていない場合は、1点減点。

問六 【配点各2点】

a 〓 翻弄

b 〓 憂

c 〓 憤激

d 〓

防波堤

e 〓

挫折

dの「堤」を「提」と書かなければ。

②(古文)『南方録』(採点基準)(理科)合計20点

注意 文科と理科で設問・配点が異なります。これは理科の採点基準です。

どの設問でも誤字、読めない書きぶり、てにをはなどの使われ方の誤り、正しくない表現等はその程度に合わせて減点する。

問一 各3点

イ 【配点3点】

A B C

(模範解答例) 歌道の考え方は 別の細かい事情も あるだろうけれども

A 歌道の考え方は

「歌道」は「和歌(歌)の道」・「和歌(歌)の世界」、またはそれに準ずる表現でも可。

「考え方」はこれかこれに準ずる表現でなくてはならず、次のような表現は 減点3。

・ ×心持ち ・ ×歌の心 ・ ×情趣の心 ・ ×手法 ・ ×本質の部分 ・ ×目指す

「では」「は」「は」でも可。

B 別の細かい事情も

「別の」はなくても可、「他」・「いろいろ」等の修飾語でも可。「細かい」「は」細かな・詳細な「でも可」。

「事情」は「解釈」、またはそれに準ずる表現でも可。

「事情」に相当する訳が曖昧である場合は、減点1。 細かいところ・細かな点

「事情」に相当する訳がない場合も、減点1。 細かくあるだろうけれども

「事情」に相当する訳が誤っている場合は、減点3。 ×さじつかえ・×描写

「事情も」「も」「は」「が」「は」でも可。

C あるだろうけれども

「あるだろうが・あるだろうけれども」「でも可」。「あるだろうけど」「は」「けど」「が」だけの表現で、減点1。

「あるけれども・あるが」等、推量表現が抜けている場合は、減点1。

ウ 【配点3点】

A B C

(模範解答例) めったにないほどに素晴らしい、その専門の道 を悟った人

A めったにないほどに素晴らしい

「めったにないほどに」「やそれに準ずる表現がない場合は、減点1。

×素晴らしい

「素晴らしい」「やそれに準ずる表現がない場合、減点1。 ×めったにない ×めったにないほどの

「素晴らしい」「に相当するべき表現が誤っている場合も、減点1。 めったにないほどに ×大切な

「」の項目に相当する訳がない() めったにないほどに「も」素晴らしい「もない」場合は、減点2。

B その専門の道「」の項目に相当する訳がない場合は、減点2)

「その専門の道」「は」「その道」「この道」でも可。 ただ「道」としている場合は、減点1。

「茶道・茶の道・茶の湯の道」等でも可。

「茶道と仏道・茶や仏の道」としている場合は、減点1。

×「仏道・仏の道」「や」「甚道・甚」「人道」等、別のものとしている場合は、×、減点2。

C を悟った人

「を悟った人」は、「に長けた人・を極めた人・の達人」等でも可。

「の第一人者・の第一人者の人」としている場合は、減点¹。

× 「追求する人・歌人」等、別のものとしている場合は、減点²。

問一 【配点5点】

A

B

C

(模範解答例) 雪間から萌え出るわずかな草にも 春を知ることが出来る とていつか

A 雪間から萌え出るわずかな草にも

「花だけでなく・華やかな花ではなく・山里の」等の表現があっても可。

「わずかな」もしくはそれに準ずる表現)「華やかとは言えない」等(がない場合は、減点¹。

雪間の草・山里の雪の間)から(出てくる)出る(草

「にも」は「からでも・からも」等でも可。この表現がない場合は、減点²。

山里の雪間の草が出て・雪間から生える草

「にも」が「にこそ」となっている場合は、減点¹。

「雪間の草」を華やかでないものとして扱い、一般化している場合、減点²。

・ 華やかでないものにも ・ 花のような華やかでないものからも

・ 一見趣のない雪の山里での春の息吹からでも

「雪間の草」を目に見えないものとして扱い、一般化している)「雪間の草」に相当の表現なし) 減点³。

・ 目に映る美しさだけを楽しいものではなく ・ 目に見えないことその他にも

B 春を知ることが出来る

「春を知ることが出来る」「は」「春を感じる(感じ取る)ことが出来る・春を感じてくれる」でも可。

可能的意味が抜けている場合は、減点¹。 春を 感じる

「風流を感じられるものがある・趣がある」等は、減点¹。

「自分の心の中にも目を回しては」「井だけ それに準ずる 自然と なつて くる 場合 は」 減点⁵。

C とていつか

文末表現が「とていつか」ということ「に」になっていない場合は、減点²。 とていつか。 ×

問三 【配点5点】

A

B

C

D

(模範解答例) 何もないうつろひ 感 を 備 す も の が 自 然 と 生 れ つ く は つ て く る 時 は な ら ず も の 心 を な ら ず も

A 何もないうつろひ

「何もないうつろひ」は「は」「は」「花など何もないうつろひ」か「ひ・簡素静寂の中にも」等でも可。

曖昧な指示語がある場合は、減点¹。 × その 何もないうつろひ か ひ

質素な中に「のうちに表現が正確でない場合は、減点²。

「何もない」の例として「雪間・山里の一面の雪」等も可)「何もない」「またはそれに準ずる表現は可)。(

何もない 山里の 雪間 に

「何もないところに」「に相当する表現がない場合は」雪間・山里の一面の雪「等があっても」、減点3。

×山里の雪間に

「雪間の草に・春が来て雪がとけることにより見られる草に」のように、「草」に**焦点** 減点3。

B 感興を催すものが

「感興」を「感動」としている「感動をさそつものが・感動を呼び起こすような所作が」等も可。

「感動は」のように感動自体としている場合、減点1。感動を与えるものが正確さを欠くものは、減点2。

・感動を与える 生命が ・感興を催させる 草が

「感興を催すもの」に**相当する表現がない場合** 減点5。

×素晴らしい草が生えてくる ・ ×季節が感じられる ・ ×華やかさが

C 自然と生まれてくる

「自然と」が「人間が手を加えずとも・意図的でなく」等、必要以上に説明がある場合は、減点1。

「生まれてくる」は「生じる・生まれてくるものである・見いだされる・ある・含まれている」でも可。

D じつじつ

「とする点」は「という点・点」でも可。文末表現が「点」になっていない場合は、減点2。

問四 【配点4点】

A

B

C

(模範解答例) 茶道だけでなく 仏の悟りに通じている点が、非常に優れている。

A 茶道だけでなく

主語は書かれていなくても可。

主語として「達人は・道を極めた人は」、「千利休・利休」、「利休と紹」があっても可。

ただし、主語が「紹」だけになっている場合や、誤った人物になっている場合は、減点1。

「茶道だけでなく」は「茶道のみならず・茶の道だけではなく」等でも可。

また、「茶道」と書かれていなくても、「一つの道を探めること」で「のびやかな表現であれば」可。

人物について言っていない場合は、減点3。

単なる

茶道の話ではなく 仏の道に通ずる話とは

B 仏の悟りに通じている点が

「仏の道にも通じているのが・仏の道にも通じており・仏教の悟りに通じていて」等でも可。

「仏の悟り・仏道」が明らかでない場合は、減点2。 他の道をも悟ることができるのは

「本当に尊ぶべきなのは釈迦の悟った道」のように、「茶道との比較で仏道をより重要とするもの」、減点4。

C 非常に優れている。

「非常に」はなくても可。

「優れている」は「素晴らしい」「でも可。」「仏の道にも通じている。素晴らしい。」「のびやかな」でも可。

「殊勝」の訳語（優れている・素晴らしい）がない、もしくは誤っている場合は、減点2。

「それに及ばない自分は謙虚であるべきだ」のように、「殊勝」の意を「謙虚であれ」の意であるとしている

る場合は、減点4。

③(漢文)採点基準(理科)合計20点

注意 文科と理科で設問・配点が異なります。これは理科の採点基準です。

漢文部分が全くの白紙である答案も、解答用紙下段の採点者記入欄に点数(0)だけは入れてください。
(解答欄に×などを記入する必要はありません。)

減点法で採点する問いがあります。

減点ポイントが満点を上回ったらそこで終了、0点とします。

問1 6点

a(1点) b(1点)

c(1点)

d(2点)

(模範解答例) 「富貴な人が立身出世に没頭して、書画をさし迫って必要のないもの」と 軽たじむようになり

なつたから。 e(1点)

なつたから。(6点)

部分的にあっても全体の主旨が間違っているものは、部分点だけを与えることはしない。

a、「富貴な人が」…主語があること。

高貴な人が…

豊で身分の高い人が…

高貴で教養のある人が…

紳士大夫たちが… (文中の語のままだがOKとする)

布衣の処士が… x

無位無官の民間人が… x

山林の士が… x

b、「立身出世に没頭して」「仕進に溺情し」の内容。

立身出世に夢中になり…

立身出世に精を出し…

出世や地位に情熱を注ぎ…

昇進することに没頭するようになり…

c、「書画を」さし迫って必要のないものと、「不急の務と爲し」の内容。

「ここを省いている答が非常に多い」 x マイナス1

急を要しない事だと思い…

いそがなくてもよいと思ふ… x

d、「書画を」軽たじむようになつた「書画を薄たじ」or「復た心を留めず」の内容。

書画に心をとめなくなった… 書画を軽視して…

画を書かなくなった…(マイナス1点)

e、「から」「理由説明の答え方」。

…のり… …ため… …という理由…

a～dまでの内容の内容が×で、ここだけあってもダメ。

「裕福は貧乏に及ばない」…

「富貴は貧賤よりはよい」… x

b、「ただの〜」「…」「徒だ…」のみ「み」の訳。

限定の訳がないもの… x

「まったくの〜である」の「た」の強調の訳でもOK。…

c、「たまたま」「…」「偶然」の訳。

「たまたま」… x

問四 4点

(解答) 書画

書画のみ正解。あとはいずれも x。